366XA シリーズ　500W 直流電源装置

本取扱説明書　対象機種

3662A　35VDC 14.5A

3663A　80VDC 6.5A

3664A　120VDC 4.2A

作成　2014 年 6 月 4 日

株式会社ティ・アンド・シー・テクニカル

電話(代表) 03-3870-7101，ファックス 03-3870-7102

文書番号：366XA- E-J

改訂番号：1.0

製品保証

アレイエレクトロニック社直流電源装置は、その仕様を満たす範囲と取扱説明書に従った使用方法において、使われている部品の欠陥及び、制作上の欠陥が無いことを保証します。

製品保証期間は、お客様へ製 品をお届けした日から 1 年間となっております。

電源装置の機能不良から自然の結果として生じた直流電源装置以外の直接的または間接的損害についての責任を負うことは無いものとします。

この保証は日本国内での保証であり、当社の判断による製品の修理あるいは交換に限定します。

直流電源装置が故障した際は、下記へ御連絡ください。返送先をお知らせいたします。輸送中の取り扱いにより発生した損害、あるいは不適当な梱包による損害は製品保証の対象外となります。お客様による分解・改造等が原因である故障は、保証期間内であっても保証対象外となります。

お問合せ先

株式会社ティ・アンド゛・シー・テクニカル

東京都足立区千住仲町 40-12

TEL03-3870-7101 ファックス 03-3870-7102

技術営業部 3 課 直流電源担当

E メール toiawase@tactec.co.jp

安全についての警告

システムに電源を投入する前に、御使用になる設定・環境が 366XA シリーズ製品に適合していることを確認してください。

感電注意

本体のカバーを開けた内部は 280Vrms を越える電圧、600V を超えるピーク電圧が発生していることがあります。

高電圧を扱うことのできる人、サービスマン以外は内部に触れないで下さい。

回路基板、テストポイント、出力電圧はシャーシに対し+もしくは-にフローティングしている場合があります。

必ずグランドとシャーシ間の電圧が 0 であることを確認してください。

設置及びサービスは本製品の危険性について理解している人が実施するようにしてください。

これはヒューズの確認等も含みます。

交流入力のグランド線は確実に装置の入力部のグランド端子もしくはケースに接続されていることを確認してください。

人員及び機器保護のため、同じグランドに接続されている機器についても、その接地が確実に行われていることを確認してください。

入出力ケーブルを取り付けたり取り外したりする場合は、必ず交流入力を遮断した状態で行ってください。

感電注意

出力中に操作を行う人は、ケースを含め危険電圧に触れることの無いようにしてください。

利用状況によって人体に危険が及び高電圧が出力端子に発生しています。

出力ラインは安全が損なわれる状態から保護し、無意識に危険な電圧に触れる状態が無い様、的確に表示・保護を行ってください。

ケースを開けている間に、電気的ショックを受ける危険に対して保護するため、電気回路部分に体が触れないようにしてください。

電源が切れている状態でもコンデンサーは充電状態となっています。

作業中突然の部品の破損等による負傷を避けるため、必ず保護眼鏡を着用してください。

電源はフィルターを持っているため、ケースには漏れ電流が流れます。そのため、本装置の操作は接地状態で行うようにしてください。

電源が運転された後、背面に近い部分は火傷を負う高温となることがあります。電源を十分に冷却した後触れるようにしてください。

ここに記載されている操作の手引き、注意事項は電源装置操作における必須のものであり、常に操作する人に事前に提供するようにしてください。作業は安全の手引き及び取扱説明書の手順に従い行ってください。

アレイエレクトロニック社及び販売代理店は、本装置及び本装置付属品の不適切な使用により生じた、人体、素材、あるいは結果として生じた渉外、損失、破損に対し一切の責任を負うことはありません。

	警告：感電注意		表示されている内容に注意してください。付属書類を参照してください。
	出力停止		交流
	出力中		直流
	保護カバー付きアース		接地

目次

仕様

仕様は温度環境 25±2℃の場合となっています。他の温度条件での数値が必要な場合はお問い合わせください。

モデル名称	3662A	3663A	3664A
出力仕様			
出力電圧範囲	0.000～35.000 VDC	0.000～80.000 VDC	0.000～120.000 VDC
出力電流範囲	0.000～14.500 A	0.000～6.500 A	0.000～4.200 A
出力設定分解能			
電圧	1mV	2mV	4mV
電流	1mA	1mA	1mA
出力設定精度			
電圧	設定値の±0.03% +5mV	設置値の±0.03%+10mV	設定値の±0.03%+15mV
電流	設定値の±0.03% +6mA	設定値の±0.03% +3mA	設定値の±0.03% +2mA
リードバック分解能			
電圧	1mV	2mV	4mV
電流	1mA	1mA	1mA
リードバック精度			
電圧	出力値の±0.02% +2mV	出力値の±0.02%+5mV	出力値の±0.02%+8mV
電流	出力値の±0.03% +6mA	出力値の±0.03% +3mA	出力値の±0.03% +2mA

モデル名称	3662A	3663A	3664A
表示分解能			
電圧	1mV	2mV	4mV
電流	1mA	1mA	1mA
表示精度	リードバック精度に従う		
ノイズ特性	20Hz～20MHz の領域で測定		
電圧（rms）	< 5 mVrms	< 8 mVrms	< 8 mVrms
電圧（p-p）	< 10 mVp-p	< 14 mVp-p	< 18 mVp-p
電流	< 2 mArms	< 0.5 mArms	< 0.5 mArms
コモンモード電流	1.5 mArms	1.5 mArms	1.5 mArms
負荷に対する安定性	入力条件：定格入力　100V～240V の範囲で一定　負荷条件：最大負荷		
電圧	±1mV	±1mV	±2mV
電流	±1mA	±0.5mA	±0.3mA
入力に対する安定性	入力条件：定格入力　100V～240V で±10%の変動　負荷条件：最大負荷		
電圧	±1mV	±1mV	±2mV
電流	±1mA	±0.5mA	±0.3mA

モデル名称	3662A	3663A	3664A
出力フィルター仕様			
キャパシタンス	3000μF	1440μF	660μF
内部負荷電流	0.65A	0.3A	0.15A
オープン負荷 スルーレート	2V/msec	4V/msec	6V/msec

出力電圧のスルーレートは電流設定を全容量（内部及び外部キャパシタンス）で割った値で制限されます。

リモートプログラミングに関しての仕様

モデル名称	3662A	3663A	3664A
出力電圧設定範囲	0.000～35.200 VDC	0.000～80.200 VDC	0.000～120.200 VDC
出力電流設定範囲	0.000～14.500 A	0.000～6.500 A	0.000～4.200 A

温度係数

測定条件：30 分の暖気後測定しています。

モデル名称	3662A	3663A	3664A
出力電圧	±(30ppm/℃ + 0.5mV)	±(30ppm/℃ + 0.8mV)	±(30ppm/℃ + 1mV)
出力電流	±(30ppm/℃ + 0.2mA)	±(30ppm/℃ + 0.1mA)	±(30ppm/℃ + 0.1mA)

安定性

測定条件：一定負荷、一定入力、一定温度環境で 8 時間連続運転して計測した結果です。

モデル名称	3662A	3663A	3664A
出力電圧	±(0.02% + 2mV)	±(0.02% + 3mV)	±(0.02% + 4mV)
出力電流	±(0.02% + 6mA)	±(0.02% + 3mA)	±(0.02% + 2mA)

設定に対する応答速度

フロントパネルにて設定し実行した時、通信により設定し実行した時において、設定値の±1%以内に到達するまでの時間です。コマンドの設定等の時間は含みません。

モデル名称	3662A	3663A	3664A
0 から全負荷到達時間	20msec	22msec	22msec
全負荷から 0 到達時間	22msec	22msec	22msec
負荷オープンで 0 から最大電圧到達時間	20msec	20msec	22msec
負荷オープンで最大電圧から 0 到達時間	22msec	22msec	22msec

モデル共通仕様

交流入力仕様

電圧入力範囲	周波数範囲	皮相電力
100V～240V	47Hz～63Hz	750VA

動作環境

温度範囲	湿度範囲
0～40℃	0～80%RH

冷却方式

ファンによる空冷

プログラミング言語

SCPI
コマンドと機能の内容 出力電圧、出力電流の設定 出力電圧と出力電流のリードバックの読み出し トラックモードの有効、無効 現在の状態の呼び出し、保存されている状態の呼び出し 構文エラー検知 校正の実行 出力の ON/OFF 制御 自己診断の実行

推奨出力定期校正期間

1 年

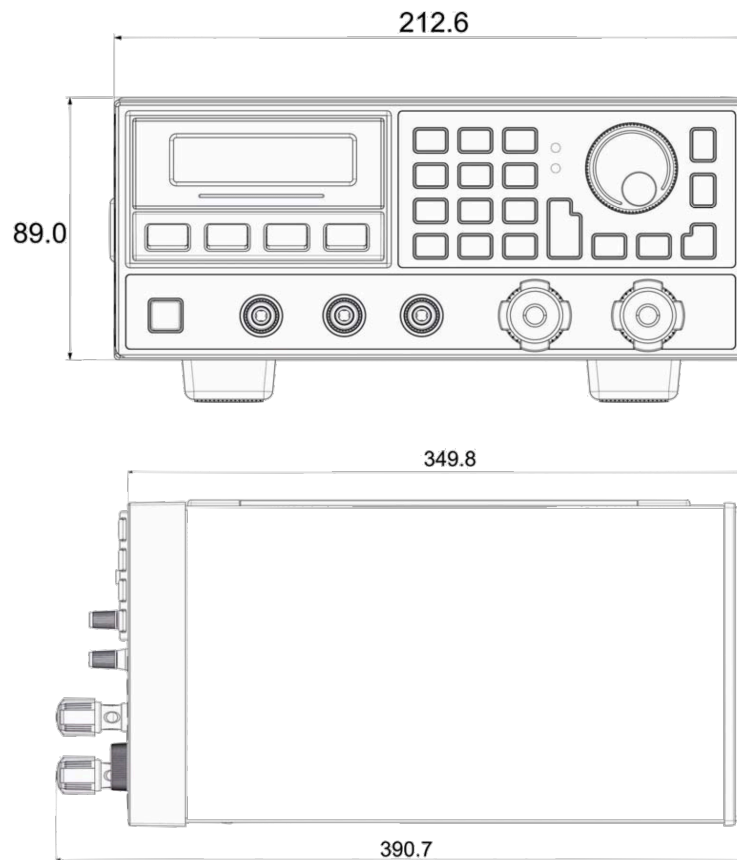
本体重量

5.5kg

本体寸法

225mm(幅)×110mm(高さ)×410mm(奥行き)　突起部含む

寸法図（正面パネル、背面パネル保護ラバープロテクターを外した状態です）

付属品

3m グランドピン付き 1mm^2 AC コード　1 本

DSUB9 ピン　シリアル通信用クロスケーブル　1 本：両端はメスコネクターです。

特徴と概要

500W の直流電力を供給する可変式の直流電源装置です。余裕のあるパワー、スイッチング技術、フルデジタル回路によりアナログ調整部を廃止、操作ボタン・ノブで出力調整、校正を行えるようにしています。電源としての基本性能；簡単な出力設定、早い応答、そして自己診断、保護機能による故障の防止に重点を置いています。安全面から出力制御まで、使いやすさを考慮した設計にまとめています。

安全のための機能

過熱、過電圧、本体の異常、遠隔制御時の構文エラー等が発生した時、現在の動作を停止し出力を停止します。

使用上の特徴

- すぐに使える電圧設定キーと電流設定キーを液晶画面直下に持っています。出力の ON/OFF もその隣にあり、簡単に設定使用できます。
- 液晶画面は出力電流、出力電圧、消費電力、出力モード、出力状態を表示、また分解能が高いので細かな調整も正確に行えます。
- 本体で校正を含む全ての機能を使用できます。
- 負荷側での電圧を基準に出力を自動調整する遠隔電圧検知端子を出力端子のすぐ横に持ち、簡単に配線が行えます。

遠隔制御

PC を用い出力を変化させるなどプログラムを組むときには SCPI プロトコルを使用できます。またシリアルインターフェス（DB9 ピン）を標準で持っているため、プログラム作成にすぐ対応できます。

設置

電源を受け取りましたら、受け取った電源の梱包に異常が無いか確認してください。

梱包に異常がありましたら、配送業者様にその旨報告し対応を確認し下記までご連絡ください。

電話：03-3870-7101　東京本社　技術営業部 3 課まで

メール：toiawase@tactec.co.jp　破損状況を示す写真をお送りください。

修理等で返送をする際、梱包材などが不足している場合はご連絡ください。こちらよりお送りいたします。

外観確認・付属品確認

表面に傷、割れ、部品の変形、脱落が無いか確認をします。

付属品

3m グランドピン付き 1mm^2 AC コード　1 本

DSUB9 ピン　シリアル通信用クロスケーブル　1 本：両端はメスコネクターです。

使用環境の確認

電源は 0 から 40℃、湿度は 0～80%RH の通常環境で使用します。温度が 40℃から 55℃の環境でフルパワーで運転した場合、過熱保護回路が動作し出力を停止します。

冷却

電源は内部にブラシレスモーターファンが使用されています。外気を本体両側面から

吸気し、背面から排気します。このため、排気、吸気を行う面を塞がないよう 20mm 程度空間をとってください。またラックに取り付ける場合は本体前後に付属するラバープロテクターを取り外してください。

作動試験

問題が無いことを確認しましたら交流を繋ぎ以下の手順で基本試験を実施します。

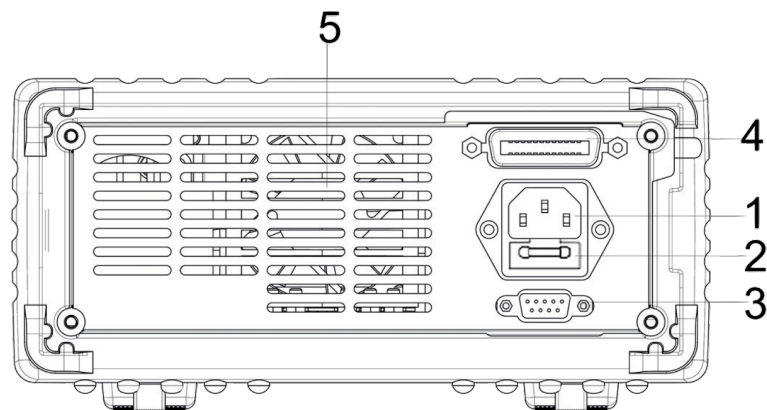
準備

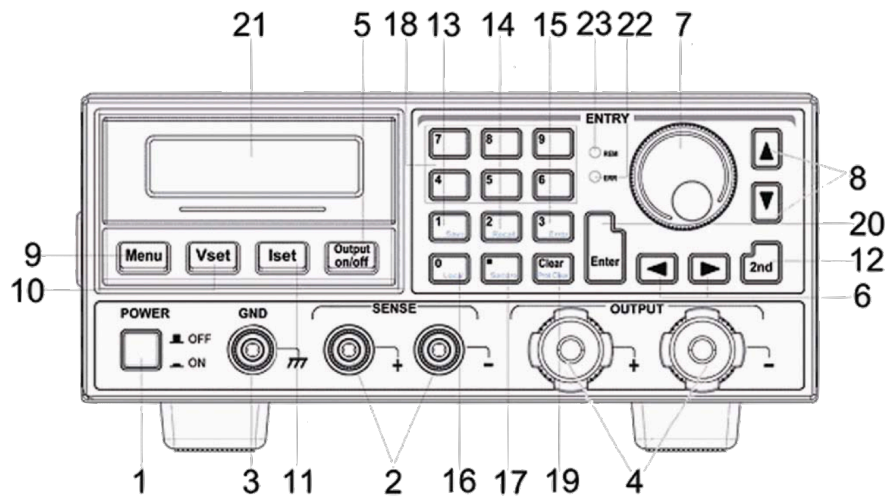
出力端子間を短絡するためのケーブルを用意します。

規格：2mm^2

交流（コンセント；グランドピン付き）

コンセントがグランド接続を持たない場合、アースが取れません。この場合 AC ケーブルにグランド線付き変換プラグを用いご使用ください。

接続、操作は図を確認し行います。

背面

1. AC 接続口
2. ヒューズ収納部：115V では 10AT、 230V 入力では 6AT をご使用ください。
3. RS232 ポート
4. GPIB ポート（オプション）
5. 排気部

フロントパネル（ラバープロテクター無し）

フロントパネル

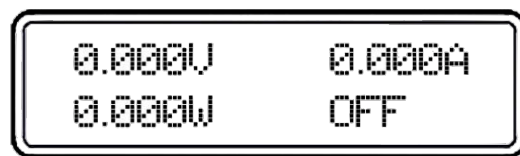
1. 主電源スイッチ；交流の入力を入り切りします。
2. 遠隔電圧検知端子
3. トリガー入力端子
4. 出力端子
5. 出力 ON/OFF ボタン
6. 左右移動ボタン：カーソルを動かす、数値を変更する
7. ジョグダイヤル
8. 上下移動ボタン：メニューを移動する、数値を変更する
9. メニューボタン
10. 電圧設定ボタン
11. 電流設定ボタン
12. 2nd メニューボタン（テンキーの青文字の機能を選択します）
13. 2nd メニュー　保存ボタン
14. 2nd メニュー　呼び出しボタン
15. 2nd メニュー　エラーボタン
16. 2nd メニュー　ローカル切替ボタン
17. 2nd メニュー　トリガーボタン
18. 数値キー
19. 2nd メニュー　保護状態解除ボタン
20. 確定ボタン
21. 液晶画面
22. エラー表示
23. 遠隔制御中表示

基本検査

1. 入力できる電圧の確認をします。本体は 100VAC から 240VAC までの電圧で最大 750VA の供給が必要です。コンセントに付属のケーブルを接続する際は他の機器と併用はしないでください。

2. Power ■ On ■ Off 交流の入力接続が出来ましたら、フロントパネルの主電源スイッチを押し込み ON します。

3. 自己診断を開始し、下記画面が出るまで待ちます。

0.000V	0.000A
0.000W	OFF

画面上段左側　電圧測定値（VSET ボタンを押すと設定値を表示）

画面上段右側　電流測定値（ISET ボタンを押すと設定値を表示）

画面下段左側　電力測定値

画面下段右側　出力表示（電源投入時は OFF）

出力中の時は CV（定電圧モード）もしくは CC（定電流モード）の表示を行います。

4. 出力 ON/OFF ボタンを押し出力を行います。液晶の OFF の表示は自動的に CV へと代わり、電圧、電流の表示は実際の出力値を表示します。電源は立ち上げ直後は出力設定はゼロになっています。

！自己診断で異常が検知された場合

フロントパネルのジョグダイヤル右側 ERR 表示 LED が点灯します。

！エラー発生原因の確認

2nd キーを一回押し、その後 Error ボタン（数字キーで 3）を押していくと液晶に表示されます。複数のエラーがある場合は繰り返し押すことで呼び出せます。

出力電圧の設定手順の確認

電源は現在出力を行っている状態です。この状態で以下の操作を行い、正常に電圧が出力されることを確認します。

Output on/off 出力が OFF であることを確認します。

ノブを用いて電圧を設定する

「**左矢印**」ボタンを一回押し、電圧の測定画面にカーソルを表示させます。この時点で電圧設定モードに変わっています。

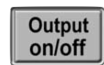
ノブ動作を確認するため、ノブを時計方向、反時計方向に回し、電圧の設定値が変化するのを確認します。値を修正する場合は Clear Prot Clear ボタンを押し調整している値を消去し、最初から調整し直します。電流計はほぼゼロであることを確認します。

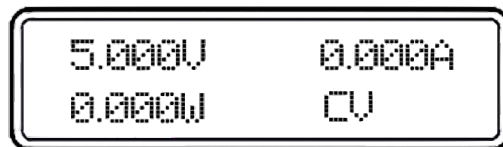
Enter ボタンを押し変更を確定します。

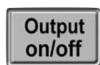
テンキーを用いて電圧を設定する

Vset　電圧設定ボタンを押し、テンキーで電圧を設定します。（例：5V）

Enter　入力が終わりましたら Enter ボタンを押し、設定値の電圧が表示されるのを確認します。

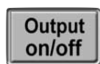
設定が終わりましたら出力をします。

Output on/off　出力を ON にします。画面はモニターモードに変わり、設定された電圧の実出力値が表示されます。また定電圧モードであることを示す CV が表示されます。

（画面表示例）

異常がないことを確認しましたら出力を切ります。

出力電流の設定手順の確認

OFF：電流設定を行う前に出力が切れていることを確認します。

出力端子の間を用意したケーブルでショートします。

Vset 電圧設定ボタンを押し、テンキーで電圧を 5V に設定します。

Enter 入力が終わりましたら Enter ボタンを押し、設定値の電圧が表示されるのを確認します。

Output on/off 出力を ON します。表示はゼロのままであることを確認します。この時点では電流設定は 0 のままなので、出力はしません。

ノブを用いて電流を設定する

「**右矢印**」ボタンを一回押し、電流の測定画面にカーソルを表示させます。この時点で電流設定モードに変わっています。

ノブ動作を確認するためノブを時計方向、反時計方向に回し電流の設定値が変化するのを確認します。値を修正する場合はClear Port Clearボタンを押し調整している値を消去し、最初から調整し直します。

Enter　入力が終わりましたら、Enter ボタンを押し変更を確定します。

テンキーを用いて電流を設定する

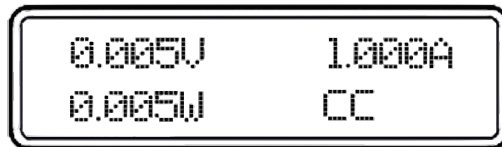
Iset　電流を設定する Iset ボタンを押し、テンキーで 1A に設定します。

Enter　入力が終わりましたら、Enter ボタンを押し変更を確定します。

画面はモニターモードに変わり 1A の実出力値が表示されます。続けてモデルの

最大電流を Iset ボタンで設定し、電流測定値を確認します。

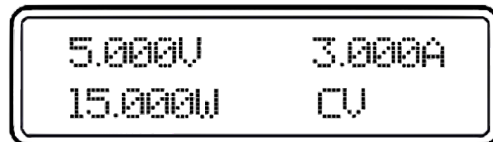
現在の出力モードが CC（定電流）と表示されていることを確認します。

（画面表示例）

確認が終わりましたら Output on/off を押し、出力を停止します。

以上で各ボタン、出力の基本動作試験を終了します。

出力モードの説明

定電圧「CV」、定電流「CC」、制御が行えない「Unreg」の三つの状態を表す表示が画面右下に出ます。

画面例

これは 5V の定電圧モードで、3A の電流が負荷に供給されています。消費電力は 15W です。

Unreg が表示される状態は、負荷が変動が早すぎ定電圧あるいは定電流を保てない状態を表します。

出力を切ると表示はゼロになり、出力されていないことを示す OFF の表示が画面右下に出ます。

電源を保護する動作

電源は使用されているときに電源が故障することを防止する保護動作機能を持っています。保護動作が発生すると出力は停止に保持され、外部コマンドによる制御を停止します。

過電圧保護

負荷を保護するために保護用に設定している電圧（メニューを参照）より高いところに設定された電圧警報及び遮断機能です。出力電圧が定電圧を超えた場合に過電圧と判断し出力を遮断します。

OV 表示：画面右下に OV が表示されます。

発生した時、液晶画面に過電圧であることを伝えるメッセージが表示されます。

解除方法：過電圧設定が低い。あるいは出力端子に異常な電圧がかかっていないことを確認した後、

＋ Clear Prot Clear（保護機能ラッチ解除）を実行し正常に復帰します。

過熱保護動作

電源の内部で異常な熱を内部温度系で検知し、出力を停止する機能です。

OT 表示：画面右下に OT が表示されます。

発生した時、液晶画面に過熱状態であることを伝えるメッセージが表示されます。

解除方法：電源の出力を停止し、内部温度が下がるまで放置します。また過熱の原因を確認する必要があります。特に吸気口（電源の両サイド）と排気口が塞が

っていないか確認をし、塞がっているあるいは極端にスペースが無い場合は空間を確保します。

＋ Clear Prot Clear（保護機能ラッチ解除）を実行し正常に復帰します。

メニューの項目と説明

Menu　メニューボタンを押すことで、メニューの項目を表示します。項目により電源を切っても変更を保持するため Save ボタン操作が必要です。

保存操作：
出力設定、過電圧設定

電源の定電圧あるいは定電流となる上限を設定します。また電圧の設定とは別に過電圧の設定します。

電源を切るとデータは消去されます。有効にする場合は上記の保存操作をします。

項目名	説明
Current Limit： XX.XXX A	電源が出力できる電流の上限を設定します。 電源は負荷が短絡しても出力できますため、予めご注意ください。 二行目には設定されている電流値が表示されます。 変更する場合は矢印ボタンでカーソルを表示させ、数値をノブあるいはテンキーで変更します。最後に Enter ボタンを押してください。
Voltage Limit： XX.XXX V	電源が出力できる電圧の上限を設定します。 二行目には設定されている電圧値が表示されます。 変更する場合は左右矢印ボタンでカーソルを表示させ、数値をノブあるいはテンキーで変更します。最後に Enter ボタンを押してください。
Voltage Over： 36.000V	ここでは過電圧保護の設定を行います。負荷が規定以上の電圧を受けることで破損するのを防止します。また出力端子に異常電圧が検知された場合、出力を停止します。

操作に関わる設定

ノブの動作及びボタン操作音の設定（Save ボタンを押す必要がありません）

項目名	説明
Beep： *On　Off	ボタン操作をしているときに音が標準で出るようになっています。 音を消す場合は左右矢印で Off に設定してください。
Knob： *On　Off	ノブの有効無効を設定します。 ノブを使用しない場合は Off にしてください。
以降は通信設定の項目です	

通信の設定

366XA シリーズはシリアル通信ポートを持っています。この設定を行います。

オプションの通信カードが付いている場合もこちらのメニューで設定を行います。

（変更による保存操作は必要ありません）

項目名	説明
Interface *RS232 USB GPIB	通信用インターフェースを選択します。標準では RS232 となっています。オプションの通信カードで GPIB、USB 設定も行えるようになります。 左右矢印ボタンで選択し、Ente ボタンで項目を確定します。さらに設定がある場合は Enter ボタンを押した後に項目が表示されます。
RS232 の設定	
Baud Rate	選択できる速度：300, 600, 1200, 2400, 4800, 9600, 19200, 38400 初期設定は 9600bps となっています。
Parity Check	選択できる項目：None　Even　Odd 初期設定は無しとなっています。
Data Bit	選択できる項目：5, 6, 7, 8 初期設定は 8bit となっています。
Stop Bit	選択できる項目：1, 2 初期設定は 1bit となっています。

項目名	説明
Flow Control	選択できる項目：On, Off 初期設定は Off となっています。
USB の設定	
無し	
GPIB の設定	
GPIB Address	任意の 2 桁の番号を設定します。初期設定は 5 番となっています。

現在の設定を保存し呼び出す

現在の「出力値」、「出力状態」を保存し、再度呼び出すことができます。

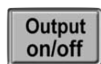
保存されるデータは 0 から 9 までの間で番号をつけます。呼び出すときはこの番号で設定を呼び出し使用します。

設定を保存する

保存される設定が出力中の場合、その条件も保存されます。

画面表示：Save 0

保存番号を 0 から 9 の間でテンキーで選択し Enter ボタンを押して保存します。保存が行われると自動的に元の画面へと戻ります。

設定を呼び出す

画面表示：Recall 0

呼び出したい設定が入っている番号を 0 から 9 の間でテンキーで選択し、Enter ボタンを押して確定します。自動的に現在の出力に設定され、出力状態での設定の場合は出力を開始します。

エラーの表示

エラーが発生した時、フロントパネルのエラー標示 LED が赤点灯します。これらのエラーはリモートインターフェスを用いたプログラム、校正、起動時の自己診断の 3 つのプロセスで起こるエラーを本体で記録し、それを呼び出すことが出来ます。

エラーの点灯の解除

エラーの点灯の解除にはエラーリストを呼び出し確認することで消灯します。

エラーリストの内容の確認方法

を押します。液晶画面に最新のエラーが表示されます。

複数のエラーが発生している場合は、繰り返し両方のボタンを順番に押してください。

エラーが確認されるとエラーのランプが消えますが、リストのコードから、エラーが再発する原因を確認し、エラーが発生しないように条件を設定してください。

調整と校正

調整と校正は使用状況、目的により必要な時に実施をするようにします。通常 1 年に一回行うようにします。

調整と校正で使用する機材の精度を記載します。記載する精度と同等かそれ以上の精度の機材をご使用ください。ここでは 3661A の校正手順を示します。

機材の仕様と校正判定基準

電流調整と校正精度　（10.000A レンジ）

計器精度：　測定値 ±（測定値の 0.05%+0.002A）以内

調整点：　0.500 A、6.000 A、9.000 A

調整後の出力校正判定基準

校正精度：以下に示される誤差範囲に出力が入れば合格です。

	下限	上限
0.5A 基準：	0.494	0.506
6A 基準：	5.992	6.008
9A 基準：	8.991	9.008

電流は高くなるに従って計測器の内部シャントの抵抗が大きくなります。ご使用の計測器の電流精度が保てる通電時間を事前に確認します。

シャントをご使用の場合は、シャントの通電電流に余裕のあるものをご使用ください。

電圧調整と校正精度　　　　　（100.0000V レンジ）

計器精度：測定値 ±（測定値の 0.005%+100V レンジの 0.0007%）以内

調整点：　0.500 V、22.000 V、34.500 V

調整後の出力校正判定基準

校正精度：以下の誤差範囲に出力が入れば合格です。

	下限	上限
0.5V 基準：	0.4949	0.5052
22V 基準：	21.9884	22.0116
34.5V 基準：	34.4847	34.5154

調整環境

温度：　20℃から 30℃以内

湿度：　20％から 80％以内

校正モードに入る

1） Vset のボタンを押しながら電源を入れてください。

画面は校正モードに切り替わります。

```
CALIBRATE  MODE:
   SECURED
```

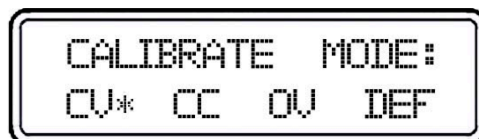
2） 2nd ＋ Secure を押しパスワード入力画面にします。

```
INPUT    PASSWORD
              _
```

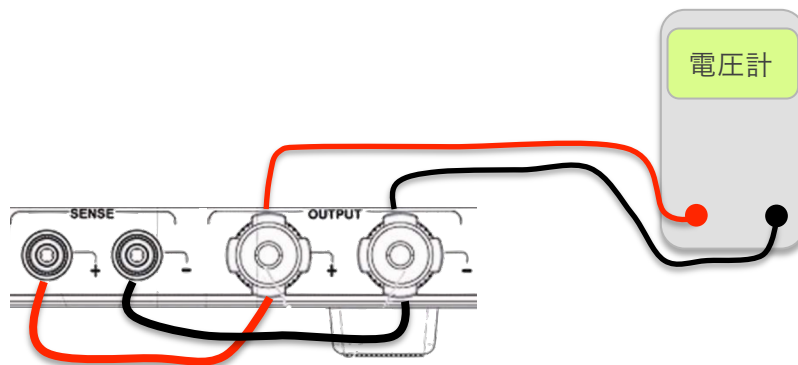
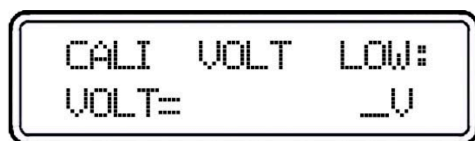
3） パスワードは 003662 を入力し Enter ボタンを押します。

4） ロックが解除されると調整する項目が表示されます。

＊CV：電圧校正　CC：電流校正　OV：過電圧校正　DEF：工場出荷時設定

```
CALIBRATE  MODE:
CV*  CC  OV  DEF
```

調整は＊を◀▶で移動し Enter ボタンを押すことで選択します。

出力電圧調整

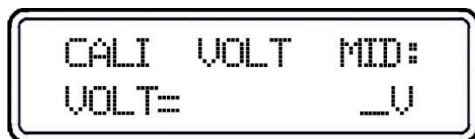
CV を選択し出力電圧を調整する場合、以下のように電圧計に配線します。電圧検知線は必ず出力端子接続してください。

画面は低い電圧点（VOLT LOW）0.5V の出力時の調整画面が表示されます。

電圧計で測定した値を 2 行目の VOLT=　　_V にテンキーで入力します。

入力値を帰る場合は Clear Prot Clear ボタンを押して一度入力値を消去してください。

数値の入力が終わりましたら Enter ボタンを押して確定します。

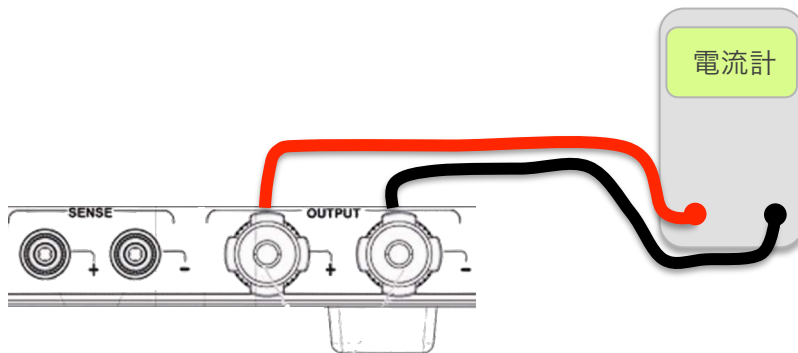
画面は中間の電圧の表示（VOLT MID）に変わり、同じように入力と確定を行います。

このとき電源からは 22V の出力が行われます。

CALI VOLT MID:
VOLT= _V

最後に高い電圧点（VOLT HIGH）に変わります。34.5V の出力が行われます。同じ手順で調整を実行します。

Enterボタンを押して確定することで、出力電圧調整は終了です。

出力電流調整

CC を選択し出力電流を調整する場合、以下のように電流計に配線します。電圧検知線は外しても問題ありません。電流は 10A 近くまで流れるため、2mm^2 のケーブルと電流計まで最短の接続をします。

画面は低い電流点（CURR LOW）0.5A の出力時の調整画面が表示されます。

電流計で測定した値を 2 行目の CURR=　　_A にテンキーで入力します。

入力値を帰る場合は Clear Prot Clear ボタンを押して一度入力値を消去してください。

数値の入力が終わりましたら Enter ボタンを押して確定します。

画面は中間の電流の表示（CURR MID）に変わり、同じように入力と確定を行います。

このとき電源からは 6A の出力が行われます。

最後に高い電流点（CURR HIGH）に変わります。9A の出力が行われ、同じ手順で調整を実行します。

Enter ボタンを押して確定することで、出力電流調整は終了です。

過電圧レンジ調整

OV の項目を選択し Enter を押します。すると画面は以下のように変わり、自動で著性を実行します。調整が終わると自動的に調整項目選択画面に復帰します。

CALI OVER VOLT
AUTO CALI

出力の校正

全ての調整作業が終了しましたら、校正を実施します。

配線は調整時と同じとし、電圧、電流出力を行い精度範囲内にあることを確認します。

精度範囲外の場合は、再度調整を実行し精度範囲内になるようにしてください。

精度が達成できない場合は、工場での検査、修理、校正が必要となります。

以上で校正作業は終了となります。

エラーコード一覧

-101 **Invalid character**

An invalid character was found in the command string. You may have inserted a character such as #, $, or % in the command keyword or within a parameter.

Example: OUTP:TRAC #ON

-102 **Syntax error**

Invalid syntax was found in the command string. You may have inserted a blank space before or after a colon in the command header, or before a comma.

Example: VOLT:LEV ,1

-103 **Invalid separator**

An invalid separator was found in the command string. You may have replaced acolon, semicolon, or blank space with a comma or you may have replaced a comma with a blank space.

Example: TRIG:SOUR,BUS or APPL P6V 1.0 1.0

-104 **Data type error**

The wrong parameter type was found in the command string. You may have specified a number where a string was expected, or vice versa.

-108 **Parameter not allowed**

More parameters were received than expected for the command. You may have entered an extra parameter, or you added a parameter to a command that does not accept a parameter.

Example: APPL? 10

-109 **Missing parameter**

Fewer parameters were received than expected for the command. You omitted one or more parameters that are required for this command.

Example: APPL

-112 **Program mnemonic too long**

A command header was received which contained more than the maximum 12 characters allowed.

-113 **Undefined header**

A command was received that is not valid for this power supply. You may have misspelled the command or it may not be a valid command. If you are using the short form of the command, remember that it may contain up to four letters.

Example: TRIGG:DEL 3

-123 **Numeric overflow**

A numeric parameter was found whose exponent was larger than 32,000.

-124 **Too many digits**

A numeric parameter was found whose mantissa contained more than 255 digits, excluding leading zeros.

-131 **Invalid suffix**

A suffix was incorrectly specified for a numeric parameter. You may have misspelled the suffix.

Example: TRIG:DEL 0.5 SECS

-134 **Suffix too long**

A suffix for a numeric parameter contained too many characters.

-138 **Suffix not allowed** A suffix was received following a numeric parameter which does not accept a suffix.

Example: STAT:QUES:ENAB 18 SEC (SEC is not a valid suffix).

-144 **Character data too long** The character data element contained too many characters.

-151 **Invalid string data**

An invalid character string was received. Check if you have enclosed the character string in single or double quotes.

Example: DISP:TEXT ’ON

-211 **Trigger ignored**

A Group Execute Trigger (GET) or *TRG was received but the trigger was ignored. Make sure that the trigger source is selected to the bus and the trigger subsystem should be initiated by INIT[:IMM] command.

-213 **Init ignored**

A Group of INIT[:IMM] was received when the bus line is selected as the trigger source. Make sure that the trigger source is selected to the bus and the trigger subsystem is initiated by INIT[:IMM] command, then triggered by *TRG.

-222 **Data out of range**

A numeric parameter value exceeds the valid range for the command. Example: TRIG:DEL -3

-223 **Too much data**

A character string was received but could not be executed because the string length was more than 40 characters. This error can be generated by the CALibration:STRing command.

-224 **Illegal parameter value**

A discrete parameter was received which was not a valid choice for the command. You may have used an invalid parameter choice.

Example: DISP:STAT ABC (ABC is not a valid choice).

-350 **Too many errors**

The error queue is full because more than 20 errors have occurred. No additional errors are stored until you remove errors from the queue. The error queue is cleared when power has been off, or after a *CLS (clear status) command has been executed.

-410 **Query INTERRUPTED**

A command was received which sends data to the output buffer, but the output buffer contained data from a previous command (the previous data is not overwritten).

The output buffer is cleared when power has been off, or after a *RST (reset) command has been executed.

-420 **Query UNTERMINATED**

The power supply was addressed to talk (i.e., to send data over the interface) but a command has not been received which sends data to the output buffer. For example, you may have executed an APPLy command (which does not generate data) and then attempted an ENTER statement to read data from the remote interface.

-430 **Query DEADLOCKED**

A command was received which generates too much data to fit in the output buffer and the input buffer is also full. Command execution continues but all data is lost.

501 **Isolator UART framing error**

502 **Isolator UART overrun error**

511 **RS-232 framing error**

512 **RS-232 overrun error**

513 **RS-232 parity error**

521 **Input buffer overflow**

522 **Output buffer overflow**

Self-Test Errors Code Explanation

601 **Front panel does not respond**

603 **System ADC test failed**

607 **Rundown too noisy**

630 **Fan test failed**

631 **System DAC test failed**

632 **Hardware test failed**

633 **Temperature Sensor disconnect**

Calibration Error

702 **Cal secured** The calibration is secured.

703 **Invalid secure code**

An invalid calibration security code was received when attempting to unsecure or secure the power supply. You must use the same security code to unsecure the power supply as what was used to secure it, and vice versa. The security code may contain up to 12 alphanumeric characters.

704 **Secure code too long**

A security code was received which contained more than 12 characters.

740 **Cal checksum failed, secure state**

741 **Cal checksum failed, string data**

745 **Cal checksum failed, DAC cal constants**

746 **Cal checksum failed, readback cal constants**

747 **Cal checksum failed, GPIB address**

748 **Cal checksum failed, internal data**

750 **Cal checksum failed, store/recall data in location 0**

751 **Cal checksum failed, store/recall data in location 1**

752 **Cal checksum failed, store/recall data in location 2**

753 **Cal checksum failed, store/recall data in location 3**

754　**Cal checksum failed, store/recall data in location 4**

755　**Cal checksum failed, store/recall data in location 5**

756　**Cal checksum failed, store/recall data in location 6**

757　**Cal checksum failed, store/recall data in location 7**

758　**Cal checksum failed, store/recall data in location 8**

759　**Cal checksum failed, store/recall data in location 9**

PC による遠隔制御

Quick Basic を用いた RS232 の操作

以下に Quick Basic を使って RS232 インターフェースを通じて 362XA と通信するための命令、

そしてその返信を説明しています。

```
CLS ' clear the display LOCATE 1, 1
          ' Set the cursor at the first line of the first row
DIM Recv$(100)
          ' Restore and receive the data array
OPEN "COM1:9600, N, 8, 2, RS, LF, PE" FOR RANDOM AS #1 LEN = 1000
          ' Baud Rate: 9600
          ' Parity Check: None
          ' Data Bit: 8
          ' Stop Bit: 2
          ' RS: sending RTS signal is forbidden
          ' LF: a <carriage return> followed by a <new line> automatically
          ' Visit: Random
          ' File number: 1
          ' #1 Length: 1000
PRINT #1, "SYST:REM"
```

```
            ' Put the power supply into the remote operation mode

PRINT #1, "OUTP ON"

            ' Enable the outputs

PRINT #1, "SYST:ERR?"

            ' Error message

LINE INPUT #1, Recv$

            ' Receive the data from the power supply

PRINT "SYST:ERR? : ", Recv$

            ' Output the received data on the display
```

Chapter 4 Remote Interface Reference
Remote Interface Reference

A detailed description of how to use the remote interface will be given in this chapter, which includes how to program the power supply through the remote interface, the commands format and matters need attention.

- SCPI Command Summary
- Simplified Programming Overview
- Using the Apply Command
- Output Setting and Operation Commands
- Triggering Commands
- System-Related Commands,
- Calibration Commands
- RS-232 Interface Commands
- The SCPI Status Registers
- Status Reporting Commands
- An Introduction to the SCPI Language
- Halting an Output in Progress
- SCPI Conformance Information

If this is the first time you use the SCPI language, it is suggested intensely to read this chapter attentively in order to become familiar with the language before you attempt to program the power supply.

SCPI Command Summary

This section mainly introduces the SCPI (Standard Commands for Programmable Instruments) commands available to program the power supply. Refer to the later sections in this chapter for more complete details on the format and function of each command.

Each SCPI command presented in this section uses the following conventional format.

1. Square brackets ([ ]) indicate optional keywords or parameters.

2. Braces ({ }) enclose parameters within a command string.

3. Triangle brackets (< >) indicate that you must substitute a value or a code for the enclosed parameter.

4. A vertical bar (|) separates one of two or more alternative parameters.

An Introduction to the SCPI Language

SCPI (Standard Commands for Programmable Instruments) is an ASCII-based instrument command language designed for test and measurement instruments.
The detailed techniques used to program the power supply over the remote interface are introduced in the following sections.

SCPI commands are based on a hierarchical structure, also known as a tree system. In this system, associated commands are grouped together under a common node or root, thus forming subsystems. A portion of the SOURce subsystem is shown below to illustrate the tree system.

```
[SOURce:]
    CURRent
        [:LEVel]
            [:IMMediate]
                [:AMPLitude]   {<current>|MIN|MAX}
                [:AMPLitude]？  [MIN|MAX]
            :TRIGgered
                [:AMPLitude]   {<current>|MIN|MAX}
                [:AMPLitude]？   [MIN|MAX]
        :LIMit
            [:AMPLitude]   {<current>|MIN|MAX}
            [:AMPLitude]？   [MIN|MAX]
    VOLTage
        [:LEVel]
            [:IMMediate]
                [:AMPLitude]   {<voltage>|MIN|MAX}
                [:AMPLitude]？  [MIN|MAX]
            :TRIGgered
                [:AMPLitude]   {<voltage>|MIN|MAX}
                [:AMPLitude]？  [MIN|MAX]
            :LIMit
            [:AMPLitude]   {<voltage>|MIN|MAX}
            [:AMPLitude]？  [MIN|MAX]
```

[SOURce:] is the root keyword of the command, CURRent and VOLTage are the second-level keywords, and LIMit is the third-level keywords. A colon (:) separates a command keyword from a lower-level keyword.

Command Format Used in This Manual

The format used to show commands in this manual is shown below:

CURRent {<current>|MINimum|MAXimum}

The command syntax shows most commands are the mixture of upper- and lower-case letters. The upper-case letters indicate the abbreviated spelling for the command. For shorter program lines, send the abbreviated form. For better program readability, send the long form. But notice that only the complete spelling form and the upper-case letters are acceptable for the keyword. Give the following example to illustrate:

In the above syntax statement, CURR and CURRENT are both acceptable forms for the keyword "CURRent". As you can use the mixture of upper- or lower-case letters for the commands, CURR, Curr, and CURr are all acceptable. Notice that the upper-case letters are indispensable. For example, "CUR" is incorrect. And "CURRe", "CURRen", will generate an error because of the incomplete spelling.

Braces "{ }" enclose the parameter choices for a given command string. The braces are not sent with the command string.

A vertical bar "|" separates multiple parameter choices for a given command string.

Triangle brackets "< >" indicate that you must specify a value for the enclosed parameter. For example, the above syntax statement shows the current parameter enclosed in triangle brackets. You must specify a value for the current parameter, which is not enclosed in the triangle bracket (such as "CURR 0.1")..

Some parameters are enclosed in square brackets "[ ]". The brackets indicate that the parameter is optional and can be omitted. The brackets are not sent with the command string. If you do not specify a value for an optional parameter, a default value will be chosen by power supply.

A colon ":" separates a command keyword from a lower-level keyword. You must insert a blank space to separate a parameter from a command keyword. If a command requires more than one parameter, you must separate adjacent parameters with a comma as shown below:

SOURce:CURRent:TRIGgered
APPL 3.5,1.5

Command Separators

A colon "：" is used to separate a command keyword from a lower-level keyword as shown below:

SOURce:CURRent:TRIGgered

A semicolon "；" is used to separate two commands within the same subsystem as shown below:

SOUR:VOLT MIN;CURR MAX

The following two commands have the same effect as the above command.

SOUR:VOLT MIN
SOUR:CURR MAX

Use a colon and a semicolon to link commands from different subsystems.
For example, in the following command string, an error is generated if you do not use the colon and semicolon:

MEAS:VOLT?;:SOUR:CURR MIN

Using the MIN and MAX Parameters

You can substitute MINimum or MAXimum for the parameter of many commands. For example, consider the following command:

CURRent {<current>|MIN|MAX}

Instead of selecting a specific current, you can `substitute MINimum to set the current to its minimum value or MAXimum to set the current to its maximum value.

Querying Parameter Settings

You can query the value of most parameters by adding a question mark (?) to the command. For example, the following command sets the output current to 5A

CURR 5

You can query the value by executing:

CURR?

You can also query the minimum or maximum value allowed with the present function as follows:

CURR? MAX
CURR? MIN

SCPI Command Terminators

A command string sent to the power supply must terminate with a <new line> character. The IEEE-488 EOI (end-or-identify) message is interpreted as a <new line> character and can be used to terminate a command string in place of a <new line> character. A <carriage return> followed by a <new line> is also accepted.

SCPI Parameter Types

The SCPI language defines several different data formats to be used in program messages and response messages.

Numeric Parameters: Commands that require numeric parameters will accept all commonly used decimal representations of numbers including optional signs, decimal points, and scientific notation. Special values for numeric parameters like MINimum, MAXimum, and DEFault are also accepted. You can also send engineering unit suffixes (V, A or SEC) with numeric parameters. If only specific numeric values are accepted, the power supply will automatically round the input numeric parameters. The following command uses a numeric parameter:

CURR {<current>|MINimum|MAXimum}

Discrete Parameters: Discrete parameters are used to program settings that have a limited number of values (like BUS, IMM). Query responses will always return the short form in all upper-case letters. The following command uses discrete parameters:

TRIG:SOUR {BUS|IMM}

Boolean Parameters: Boolean parameters represent a single binary condition that is either true or false. For a false condition, the power supply will accept “OFF” or “0”. For a true condition, the power supply will accept “ON” or “1”. When you query a boolean setting, the power supply will always return “0” or “1”. The following command uses a boolean parameter:

DISP *{OFF|ON}*

String Parameters: String parameters can contain virtually any set of ASCII characters. A string must begin and end with matching quotes; either with a single quote or with a

double quote. You can include the quote delimiter as part of the string by typing it twice without any characters in between. The following command uses a string parameter:

DISPlay:TEXT <*quoted string*>

Output Setting and Operation Commands
APPLy [{<voltage>|DEF|MIN|MAX}][,{<current>|DEF|MIN|MAX}]]
APPLy?

MEASure
:CURRent[:DC]?
[:VOLTage][:DC]?
Output
[:STATe] {OFF|ON}
[:STATe]?
:TRACk[:STATe] {OFF|ON}
: TRACk[:STATe]?
[SOURce:]
CURRent[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude] {<current>[MIN|MAX}
CURRent[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude]? [MIN|MAX]
CURRent[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude] {<current>|MIN|MAX|DEF}
CURRent[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude]? {MIN|MAX|DEF}
CURRent[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude] {<current>[MIN|MAX}
CURRent[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude]? [MIN|MAX]
VOLTage[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude] {<current>|MIN|MAX}
VOLTage[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude]? [MIN|MAX]
VOLTage[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude] {<current>|MIN|MAX|DEF}
VOLTage[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude]? {MIN|MAX|DEF}
VOLTage[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude] {<current>[MIN|MAX}
VOLTage[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude]? [MIN|MAX]

Trigger Commands
INITiate[:IMMediate]

TRIGger[:SEQuence]
:DELay {<second>|MIN|MAX}
:DELay?
:SOURce {BUS|IMM}
:SOURce?
*TRG

System-Related Commands
DISPlay[:WINDow]

[:STATe] {OFF|ON}
[:STATe]?
:TEXT[:DATA] <quoted string >
:TEXT[:DATA]?
:TEXT:CLEar
SYSTem
:BEEPer[:IMMediate]
:ERRor?
:VERSion?
*IDN?
*RST
*TST?
*SAV {1|2|3}
*RCL {1|2|3}

Calibration Commands

CALibration
:COUNt?
:CURRent[:DATA] < numeric value >
:CURRent:LEVel {MIN|MAX}
:SECure:CODE <new code >
:SECure:STATe {OFF|ON},<new code>
:SECure:STATe?

:STRing <quoted string >
:STRing?

:VOLTage[:DATA] < numeric value >
:VOLTage:LEVel {MIN|MAX}

Status Reporting Commands

STATus:QUEStionable
[:EVENt]?
:ENABle <enable value >
:ENABle?
:INSTrument[:EVENt]?
:INSTrument:ENABle <enable value>
:INSTrument:ENABle?
:INSTrument:ISUMmary<n>[:EVENt]?
:INSTrument:ISUMmary<n>:CONDition?
:INSTrument:ISUMmary<n>:ENABle <enable value>
:INSTrument:ISUMmary<n>:ENABle?

SYSTem:ERRor?
*CLS
*ESE <enable value>
*ESE?
*ESR?
*OPC
*OPC?
*PSC {0|1}
*PSC?
*SRE <enable value>
*SRE?
*STB?
*WAI

RS-232 Interface Commands

SYSTem
    :LOCal
    :REMote
    :RWLock

Simplified Programming Overview

This chapter gives an overview of the basic commands used to program the power supply over the remote interface. Some of them are the SCPI-confirmed commands, and some are the device-specific commands. It is unnecessary to differentiate them when using ARRAY 366XA.

Using the APPLy Command

The APPLy command provides the most straightforward method to program the power supply over the remote interface, such as to control one output or triple outputs of power supply, and to read the immediate output value of each supply. Give the following example to illustrate:

APPLY 3.3,2.0 Set the supply to an output of 3.3V rated at 2.0A

APLLY 12.0,0.5 Set the supply to an output of 12.0V rated at 0.5A

Using the Low-Level Commands

The main feature of the low-level commands is to provide you with more flexibility to change or query the individual parameters than the APPLy command. Give the following example to illustrate how to use the low-level commands to set the supply to an output of 5.0V rated at 4.0A:

VOLT 3.3

CURR 2.0

The two commands shown in this example has the same function as the first command shown in the above example, which shows when some individual parameter is changed, there is no need to enter the whole setting parameters as the above example, just enter some specified parameter.

Reading a Query Response

Only the query commands (commands that end with "?") will instruct the power supply to send a response message, which gives the either returned values or internal instrument settings. Take below commands as examples to illustrate:

SYST:ERR? Query and read the error message, and return a relevant error message

CAL:SEC:STAT? Query the calibration security, and return the relevant value

SYST:VERS? Query the system version, and return the version number accordingly

Selecting a Trigger Source

The power supply will accept a "bus" (software) trigger or an immediate internal trigger as a trigger source. By default, the "bus" trigger source is selected. If you want the power supply to use an immediate internal trigger, you must select "IMMediate". For example:

TRIG:SOUR IMM Select an immediate internal trigger as a trigger source

INIT Initiate the trigger system

Using the APPLY Command

APPLy

{<voltage>|DEF|MIN|MAX}[,{<current>|DEF|MIN|MAX}]]

This command is to specify the power supply's output, which can be divided into three parts:

The first part is the keyword "APLLy".

The second part is to set the voltage value *{<voltage>|DEF|MIN|MAX},* by which you can set the output voltage value of the specified supply. For the setting range, please consult the relevant voltage parameters listed in the table of "Programming Ranges and Output Identifiers" section.

The third part is to set the current value *{<current>|DEF|MIN|MAX},* by which you

can set the output current value of the specified supply. For the setting range, please consult the relevant current parameters listed in the table of “Programming Ranges and Output Identifiers” section.

When the voltage and current are set, the “*DEF|MIN|MAX*” represents the default value, the minimum value and the maximum value respectively.

For example:
APPLY 5.0,2.5 Set the supply to an output of 5.0V rated at 2.5A

Executing the low-level commands has the same effect as this command. Please refer to the last section.

APPLy?
This command queries and returns the power supply’s present voltage and current values for each output. For example:
APPLy? Query and return the voltage and the current set values of power supply.

Output Setting and Operation Commands
This section describes the low-level commands used to program the output of power supply. Although the APPLy command provides the most straightforward method to program the output of power supply, the low-level commands give you more flexibility to change individual parameters, which include output selection commands, measurement commands, output on/off and tracking operation commands and output setting commands.
Measurement Commands
MEASure:CURRent[:DC]?
This command measures and returns the current value at the present output terminals of the power supply. The physical outputs of measurement are specified by the output identifier. If any output identifier is not specified, the current of the selected output is returned.

MEASure:VOLTage[:DC]?
This command measures and returns the voltage value at the present output terminals of the power supply. The physical outputs of measurement are specified by the output identifier. If any output identifier is not specified, the voltage of the currently selected output is returned.

Output on/off and Tracking Operation Commands

Output[:STATe] {OFF|ON}

This command enables or disables the outputs of the power supply.

For example：

OUTPUT ON	Enable the outputs
OUTPUT OFF	Disable the outputs

Output[:STATe]?

This command queries the output state of the power supply and returns the corresponding values. “OFF” shows the output is disabled, and “ON” shows the output is enabled.

Output Setting Commands

[SOURce:]CURRent[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude] {<current>[MIN|MAX}

This command directly programs the immediate output current level of the output selected with the INST command.

[SOURce:]CURRent[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude]? [MIN|MAX]

This command checks and returns the immediate current value at the present output terminals of the power supply or the maximum and minimum programmable current levels of the selected output.

For example:

CURR?	Query and return the immediate current value of the output terminals
CURR? MAX	Query and return the maximum programmable current level of the output terminals.
CURR? MIN	Qurery and return the minimum programmable current level of the output terminals

[SOURce:]CURRent[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude] {<current>|MIN|MAX|DEF}

This command is to set the maximum current limit value of the output selected with INST command.

[SOURce:]CURRent[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude]? |MIN|MAX|DEF}

This query returns the current limit level of the presently selected output or the minimum/ maximum/ default programmable current values of the presently selected output.

[SOURce:]CURRent[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude] {<current>[MIN|MAX}

This command programs the pending triggered current level of the power supply,

which is a stored value and transferred to the output terminals when a trigger occurs. A pending triggered level is not affected by subsequent CURRent commands.

[SOURce:]CURRent[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude]? [MIN|MAX]
This query checks and returns the presently programmed triggered current level. If no triggered level is programmed, present CURRent value is returned.

CURRent:TRIGgered?	Return the CURRent value or the set triggered current level of the selected output
CURRent:TRIGgered? MAX	Return the maximum programmable current value of the selected output
CURRent:TRIGgered? MIN	Return the minimum programmable current value of the selected output

VOLTage[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude] {<voltage>|MIN|MAX}
This command directly programs the immediate output voltage level of the output selected with the INST command.

[SOURce:]VOLTage[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude]? [MIN|MAX]
This command checks and returns the immediate voltage value at the present output terminals of the power supply or the maximum and minimum programmable voltage levels of the selected output. For example:

VOLT?	Query and return the immediate voltage value of the output terminals
VOLT? MAX	Query and return the maximum programmable voltage levels of the output terminals
VOLT? MIN	Query and return the minimum programmable voltage levels of the output terminals

[SOURce:]VOLTage[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude] {<voltage>|MIN|MAX|DEF}
This command is to set the maximum voltage limit value of the presently programmed output selected with INST command.

[SOURce:]VOLTage[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude]? {MIN|MAX|DEF}
This query returns the voltage limit level of the selected output, or the maximum/minimum/default programmable voltage values of the selected output.

[SOURce:]VOLTage[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude] {<voltage>[MIN|MAX}
This command programs the pending triggered voltage level of the power supply, which is a stored value and transferred to the output terminals when a trigger occurs. A pending triggered level is not affected by subsequent VOLTage commands.

[SOURce:]VOLTage[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude]? [MIN|MAX]
This query checks and returns the presently programmed triggered voltage level. If no triggered level is programmed, the VOLTage value is returned.

VOLTage:TRIGgered?	Return the VOLTage value or the set triggered voltage level of the selected output
VOLTage:TRIGgered? MAX	Return the maximum programmable voltage values of the selected output
VOLTage:TRIGgered? MIN	Return the minimum programmable voltage values of the selected output

Trigger Source Choice

The power supply's system allows a change in the output of the power supply when receiving a trigger. Triggering the power supply includes internal immediate trigger and bus trigger.
Triggering the power supply is a multi-step process:
1. Select an output with the INST:[SELect] command and then configure the power supply for the triggered output level by using CURRent:TRIGgered and VOLTage:TRIGgered.
2. Specify the source from which the power supply will accept the trigger. The power supply will accept a bus (software) trigger or an immediate trigger.
3. Set the time delay between the detection of the trigger on the specified trigger source and the start of any corresponding output change. Notice that the time delay is valid for only the bus trigger source.
4. Execute an INITiate[:IMMediate] command. If the IMMediate source is selected, the selected output is set to the triggered level immediately. But if the trigger source is the bus, the power supply is set to the triggered level after receiving the Group Execute Trigger (GET) or *TRG command.

Selecting a Trigger Source
You must specify the source from which the power supply will accept a trigger. The trigger is stored in volatile memory; the source is set to bus when the power supply has been off or after a remote interface reset.

Bus (Software) Triggering
1. Select the bus trigger source by sending the following command.
TRIGger:SOURce BUS
2. Trigger the power supply from the remote interface by sending the *TRG command. And the power supply outputs specified triggered output level after the set time delay

if any delay is given.
3. You can also select the trigger source from the USB, RS-232 or GPIB interface. The operation has been introduced before.

Immediate Triggering
1. Select the internal immediate trigger source by sending the following command:
TRIGger:SOURce IMM
2. If the IMMediate source is selected as a trigger source, once the trigger command is executed, the power supply outputs triggered output voltage and current immediately. Any delay is ignored.

Trigger Commands

INITiate[:IMMediate]
This command causes the trigger system to initiate. This command initiates the trigger subsystem when the trigger source is bus and completes one full trigger cycle when the trigger source is the internal immediate.

TRIGger[:SEQuence]:DELay{<second>| MINimum | MAXimum}
This command sets the time delay between the detection of an event on the specified trigger source and the start of any corresponding trigger action on the power supply output. Select from 0 to 3600 seconds. MIN = 0 second. MAX = 3600 seconds. At *RST, this value is set to 0 second.

TRIGger[:SEQuence]:DELay?
This command queries the trigger delay set by bus.

TRIGger[:SEQuence]:SOURce {BUS | IMMediate}
This command selects the source from which the power supply will accept a trigger. The power supply will accept a bus trigger or an internal immediate trigger. At *RST, the bus trigger source is selected.

TRIGger[:SEQuence]:SOURce?
This command queries the present trigger source and returns “BUS” or “IMM”.

***TRG**
This command generates a trigger to the trigger subsystem that has selected a bus trigger as its source. The command has the same effect as the Group Execute Trigger (GET) command.

System-Related Commands

DISPlay[:WINDow][:STATe] {OFF | ON}
This command turns the front-panel display on or off. When the display is turned off,

messages are not sent to the display and all annunciators are disabled except the "ERROR" and "Rmt" annunciators.
The display state is automatically turned on when you return to the local mode. After pressing the "Local" key to return to the local state from the remote interface, press any key except for the number keys, knobs, "Resolution", "Clear", "Enter", and "Track" keys, or "power-on/reset" key to switch to the display status automatically.

DISPlay[:WINDow][:STATe]?
This command queries the front-panel display setting and returns "0" (OFF) or "1" (ON).

DISPlay[:WINDow]:TEXT[:DATA] <quoted string>
This command displays a message on the front panel. The power supply will display up to 12 characters in a message in the form of English letters, Arabic numerals and the blank spaces. Any additional characters are truncated. Each special mark is displayed in the form of the blank space with individual display space. (Except for the single quotes, because which indicate the start and the end of the character string message.) The power supply will not send the output to the display when a message is shown on the front panel.

DISPlay[:WINDow]:TEXT[:DATA]?
This command queries the message sent to the front panel and returns a quoted string.

DISPlay[:WINDow]:TEXT:CLEar
This command clears the message displayed on the front panel, and makes the display exit the character string displaying mode to switch to the immediate mode automatically.

SYSTem:BEEPer[:IMMediate]
This command makes the power supply generates a single beep immediately.

SYSTem:ERRor?
This command queries the power supply's error queue. When "ERROR" annunciator in the front panel turns on, one or more command syntax or hardware errors have been detected. At present, if this command is sent to the power supply through remote interface, the power supply can return corresponding error messages. Up to 20 errors can be stored in the error queue.

SYSTem:VERSion?
This command queries the power supply to determine the present SCPI version. The returned value is a string in the form YYYY.V where the "YYYY" represent the year of the version, and the "V" represents a version number for that year (for example, 1995.0).

***IDN?**
This query command reads the power supply's identification string. The power supply returns four fields separated by commas. The first field is the manufacturer's name, the second field is the model number, the third field is reserved (always "0"), and the fourth field is a version code which contains three numbers. The first number of the version code is the firmware version number for the main power supply processor; the second is for the input/output processor; and the third is for the front-panel processor. For example:

ARRAY,3662A,0,1.3-1.0-1.5

***RST**
This command resets the power supply to its power-on state.

Command	State
CURR[:LEV][:IMM]	Output dependent value※
CURR[:LEV]:TRIG	Output dependent value※
DISP[:STAT]	ON
INST[:SEL]	P6V
INST:COUP	NONE
OUTP[:STAT]	OFF
OUTP:TRAC	OFF
TRIG:DEL	0
TRIG:SOUR	BUS
VOLT[:LEV][:IMM]	0
VOLT[:LEV]:TRIG	0

The reset operation sets the output current to the maximum value.

***TST?**
This query performs a complete self-test of the power supply and returns "0" if the self-test passes or "1" if it fails.

***SAV { 0| 2 | ……|9 }**
This command stores the present state of the power supply, which can store 10 sets of operating states from 0 to 9. The state storage features in saving the states or values of INST[:SEL], VOLT[:IMM], CURR[:IMM], OUTP[:STAT], OUTP:TRAC, TRIG:SOUR and TRIG: DEL.

***RCL { 0| 2 | ……|9 }**
This command recalls a previously stored state. To recall a state, you must store it in advance. When recalling a stored state, you must use the same memory location used previously to store the state.

Calibration Commands

CALibration:COUNt?
This command queries the power supply to determine the number of times it has been calibrated.

CALibration:CURRent[:DATA] <numeric value>
This command can only be used after calibration is unsecured. It enters a current value of a selected output that you obtained by reading an external meter. You must first select a calibration level (CAL:CURR:LEV) for the value being entered. Two successive values (one for each end of the calibration range) must be selected and entered. The power supply then computes new calibration constants, which are then stored in internal memory.

CALibration:CURRent:LEVel {MINimum | MAXimum}
Before using this command, you must select the output which is to be calibrated by INSTrument command. This command can only be used after calibration is unsecured. It sets the power supply to a calibration point that is entered with CALibration:CURRent[:DATA] command. During calibration, two calibration points must be entered and the low-end point (MIN) must be selected and entered first.

CALibration:SECure:CODE <new code>
This command enters a new security code. To change the security code, first unsecure the power supply with the old security code. Then, enter the new one.

CALibration:SECure:STATe {OFF | ON>}, <code>
This command secures or unsecures the power supply for calibration.

CALibration:SECure:STATe?
This command queries and returns the current secured state for calibration of the power supply. The returned parameter is “0” (unsecured) or “1” (secured).

CALibration:STRing <quoted string>
This command records calibration information about your power supply.
For example, you can store such information as the calibrator and the calibration date.

CALibration:STRing?
This command queries the calibration message and returns a quoted string.
CALibration:VOLTage[:DATA] <numeric value>
This command can only be used after calibration is unsecured. It enters a voltage value of a selected output that you obtained by reading an external meter. You must first select a calibration level (CAL:VOLT:LEV) for the value being entered. Two successive values (one for each end of the calibration range) must be selected and entered. The power supply then computes new voltage calibration constants, which

are then stored in internal memory.

CALibration:VOLTage:LEVel {MINimum | MAXimum}
Before using this command, you must select the output which is to be calibrated by INSTrument command. This command can only be used after calibration is unsecured. It sets the power supply to a calibration point that is entered with CALibration:VOLTage[:DATA] command. During calibration, two calibration points must be entered and the low-end point (MIN) must be selected first.

RS-232 Interface Commands

SYSTem:LOCal
This command makes the power supply switch to local mode from remote mode. All keys on the front panel are fully functional. The "Rmt" annunciator on the display is off.

SYSTem:REMote
This command places the power supply in the remote mode. All keys on the front panel, except the "Local" key, are disabled. The "Rmt" annunciator on the display is on.

SYSTem:RWLock
This command places the power supply in the remote mode. All keys on the front panel, including the "Local" key, are disabled. The "Rmt" annunciator on the display is on.

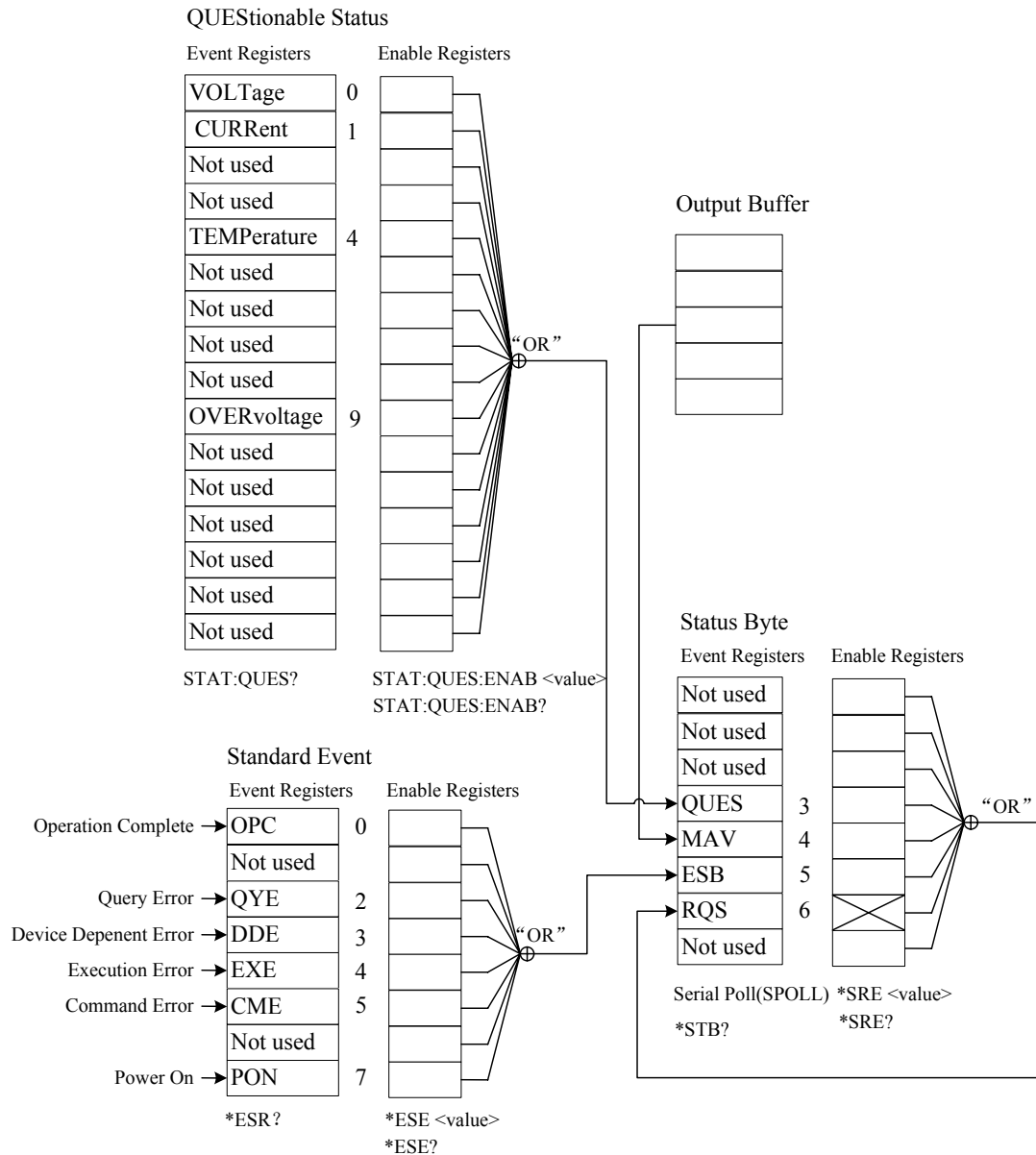
Ctrl-C
This command clears the operation in progress over remote interface and discards any pending output data.

The SCPI Status Registers

All SCPI instruments implement status registers in the same way. The status system records various instrument conditions in three register groups: the Status Byte register, the Standard Event register, and the Questionable Status register group. The Status Byte register records high-level summary information reported in the other register groups. Chapter Five will illustrate how to use SCPI status registers.
What is an Event Register?
An event register is a read-only register that reports defined conditions within the power supply. Bits in an event register are latched. Once an event bit is set, subsequent state changes are ignored. Bits in an event register are automatically cleared by a query command of that register (such as *ESR? Or STAT:QUES:EVEN?) or by sending the *CLS command. A reset (*RST) or device clearance command will

not clear bits in event registers. Querying an event register returns a decimal value which corresponds to the binary-weighted sum of all bits set in the register.

What is an Enable Register?

An enable register defines which bits in the corresponding event register are logically ORed together to form a single summary bit. Enable registers are both readable and writable. Querying an enable register will not clear it. The *CLS (clear status) command does not clear enable registers but it does clear the bits in the event registers. To enable bits in an enable register, you must write a decimal value which corresponds to the binary-weighted sum of the bits you wish to enable in the register.

The Questionable Status Register

The questionable status register provides information relate to the abnormal operation of the power supply. When Bit 0 is 1. the power supply is in constant voltage mode and when Bit 1 is 1, the power supply is in constant current mode. Bit 4 reflects power supply's operating temperature. When bit 9 is 1, it indicates that the power supply is in over-voltage state and its over-voltage circuit begins to work. Query the value of this register with STATus:QUEStionable? Command.

Bit Definitions - Questionable Status Register

Bit	Decimal Value	Definition
0(Voltage)	1	The power supply is in constant voltage mode.
1(Current)	2	The power supply is in constant voltage mode.
2-3(Not used)	0	Always set to 0.
4(Over-temperature)	16	The fan has a fault condition.
5-8(Not used)	0	Always set to 0.
9(Over Voltage)	512	The power supply is in over-voltage state.
10-15(Not used)	0	Always set to 0.

The questionable status event register is cleared when:
1. You execute the *CLS (clear status) command.
2. You query the event register with STATus:QUEStionable [:EVENt]? (Status Questionable Event register) command

The questionable status enable register is cleared when you execute STATus:QUEStionable:ENABle 0 command.

The Standard Event Register
The standard event register reports the following instrument events: power-on detected errors, command syntax errors, command execution errors, self-test or calibration errors, query errors, or an *OPC command. Any or all of these conditions can be reported in the standard event summary bit of status byte register through the enable register. To set the enable register mask, you write a decimal value to the register using the *ESE (Event Status Enable) command.

Bit Definitions - Standard Event Register

Bit	Decimal Value	Definition
0 OPC	1	Operation Complete. All commands prior to and including an *OPC command have been executed.
1 not used	0	Always set to 0.
2 QYE	4	Query Error. The power supply tried to read the output buffer but it was empty. Or, new command line was received before a previous query had been read. Or, both the input and output buffers are full.
3 DDE	8	Device Error. A self-test or calibration error occurred.
4 EXE	16	Execution Error. An execution error occurred.
5 CME	32	Command Error. A command syntax error occurred.
6 not used	0	Always set to 0.
7 PON	128	Power On. Power has been turned off and on since the last time the event register was read or cleared

The standard event register is cleared when:

1. You execute the *CLS (clear status) command.
2. You query the event register using the *ESR? (Event Status register) command.

For example, if 28 (4 + 8 + 16) is returned when you query the status of the standard event register, it is convinced that QYE, DDE, and EXE conditions have occurred.

The standard event enable register is cleared when:

1. You execute the *ESE 0 command.
2. You turn on the power and have configured the power supply using the *PSC 1 command.
3. The enable register will not be cleared at power-on if you have configured the power supply with the *PSC 0 command.

For example, you must send *ESE 24 (8 + 16) to enable DDE and EXE bits.

The Status Byte Register

The status byte summary register reports conditions from the other status registers. Query data that is waiting in the power supply's output buffer is immediately reported through the "Message Available" bit (bit 4) of status byte register. Bits in the summary register are not latched. Clearing an event register will clear the corresponding bits in the status byte summary register. Reading all messages in the output buffer, including any pending queries, will clear the message available bit.

Bit Definitions - Status Byte Summary Register

Bit	Decimal Value	Definition
0-2 not used	0	Always set to 0
3 QUES	8	One or more bits are set in the status register.
4 MAV	16	Data is available in the power supply's output buffer.
5 ESB	32	One or more bits are stored in the standard event register.
6 RQS	64	The power supply is requesting service (serial poll).
7 not used	0	Always set to 0

The status byte summary register is cleared when:

1. You execute the *CLS (clear status) command.
2. Querying the standard event register (*ESR? command) will clear only bit 5 in the status byte summary register.

For example, if 24 (8 + 16) is returned when you query the status of the Status Byte register, it is convinced that QUES and MAV conditions have occurred.

The status byte enable register (Request Service) is cleared when:

1. You execute the *SRE 0 command.
2. You turn on the power and have configured the power supply using the *PSC 1 command.
3. The enable register will not be cleared at power-on if you have configured the power supply using *PSC 0.

For example, you must send *SRE 96 (32 + 64) to enable ESB and RQS bits.

Status Reporting Commands

SYSTem:ERRor?

This query command reads one error from the error queue. When the front-panel ERROR annunciator turns on, one or more command syntax or hardware errors have been detected. A record of up to 20 errors can be stored in the power supply's error

queue. The additional errors will not be stored.

1. Errors are stored and retrieved in first-in-first-out (FIFO) order. The first error returned is the first error that was stored. When you have read all errors from the queue, the “ERROR” annunciator turns off.

2. If more than 20 errors have occurred, the last error stored in the queue (the most recent error) is replaced with -350, “Too many errors”. No additional errors are stored until you read or remove errors from the queue. If no errors have occurred when you execute this command, the power supply responds with “+0”, “No error”.

3. The error queue is cleared when the power has been off or a *CLS (clear status) command has been executed. The *RST (reset) command does not clear the error queue.

STATus:QUEStionable[:EVENt]?
This command queries the questionable status event register. The power supply returns a decimal value which corresponds to the binary-weighted sum of all bits in the register.

STATus:QUEStionable:ENABle <enable value>
This command enables or disables bits in the questionable status event register. The selected bits are then reported to the status byte.

STATus:QUEStionable:ENABle?
This command queries the questionable status enable register. The power supply returns a decimal value representing the bits set in the enable register and corresponding to the binary-weighted sum of all bits in the register.

***CLS**
This command clears all event registers and status yte register.

***ESE** <enable value>
This command enables bits in the standard event enable register. The selected bits are then reported to the status byte.

***ESE?**
This command queries the standard event enable register. The power supply returns a decimal value which corresponds to the binary-weighted sum of all bits in the register.

***ESR?**
This command queries the standard event register. The power supply returns a decimal value which corresponds to the binary-weighted sum of all bits in the register.

***OPC**
This command sets the "Operation Complete" bit (bit 0) of the standard event register after the command is executed.

***PSC { 0 | 1 }**
(Power-on status clear.) This command clears the status byte and the standard event register enable masks when power is turned on (*PSC 1). When *PSC 0 is in effect, the status byte and standard event register enable masks are not cleared when power is turned on.

***PSC?**
This command queries the power-on status clear setting. The returned parameter is "0" (*PSC 0) or "1" (*PSC 1).

***SRE** <enable value>
This command enables bits in the status byte enable register.

***SRE?**
This command queries the status byte enable register. The power supply returns a decimal value which corresponds to the binary-weighted sum of all bits set in the register.

***STB?**
This command queries the status byte summary register. The *STB? command is similar to a serial poll but it is processed like any other instrument command. The *STB? command returns the same result as a serial poll but the "Request Service" bit (bit 6) is not cleared if a serial poll has occurred.

***WAI**
This command instructs the power supply to wait for all pending operations to complete before executing any additional commands over the interface. Used only in the triggered mode.

SCPI Conformance Information

The SCPI commands relevant to the power supply operation are introduced in detail in this manual, and most of their usage and formats are in accordance with the standard SCPI Commands. There are still some commands required by the standard SCPI commands not being introduced but it is not necessary for the users to know them.

SCPI Confirmed Commands
The following commands are introduced in this manual:

DISPlay
[:WINDow][:STATe] {OFF|ON}
[:WINDow][:STATe]?
[:WINDow]:TEXT[:DATA] <quoted string >
[:WINDow]:TEXT[:DATA]?
[:WINDow]:TEXT:CLEar

MEASure
[:SCALar]:CURRent[:DC]?
[:SCALar] :VOLTage[:DC]?

OUTPUT
[:STATe] {OFF/ON}
[:STATE]?

[SOURce:]
CURRent[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude] {<current>|MIN|MAX}
CURRent[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude]? [MIN|MAX]
CURRent[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude] {<current>|MIN|MAX}
CURRent[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude]?[MIN|MAX]
VOLTage[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude] {<voltage>|MIN|MAX}
VOLTage[:LEVel][:IMMediate][:AMPLitude]?[MIN:MAX]
VOLTage[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude] {<voltage>|MIN|MAX}
VOLTage[:LEVel]:TRIGgered[:AMPLitude]?[MIN|MAX]

STATus
:QUEStionable[:EVENt]?
:QUEStionable:ENABle <enable value>
:QUEStionable:ENABle?
:QUEStionable:ENABle <enable value>

SYSTem
:BEEPer[:IMMediate]
:ERRor?
:VERSion

TRIGger
[:SEQuence]:DELay {<second>|MIN|MAX}
[:SEQuence]:DELay?
[:SEQuence]:SOURce{BUS|IMM}
[:SEQuence]:SOURce?
INITiate[:IMMediate]

Device-Specific Commands
The following commands are specific to the ARRAY 366XA power supply.
However, these commands are designed with the SCPI Command in mind and they follow all of the syntax rules defined by the standard command.

List as follow:

APPLy
 [{<voltage>|DEF|MIN|MAX>}[,{<current>|DEF|MIN|MAX}]]
APPLy?
CALibration
:COUNt?
:CURRent[:DATA] <numeric value>

:CURRent:LEVel {MIN|MAX}
:SECure:CODE <new code>
:SECure:STATe {OFF|ON},<voltage>
:SECure:STATe?
:STRing <quoted string >
:STRing?

:VOLTage[:DATA] <numeric value>
:VOLTage:LEVel {MIN|MAX}

MEASure
[:SCALar]:CURRent [:DC]?
[:SCALar]:VOLTage[:DC]?
[:SCALar]:TEMPerature?

[SOURce:]
CURRent[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude] {<current>|MIN|MAX|DEF}
CURRent[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude]? {MIN|MAX|DEF}
VOLTage[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude] {<voltage>|MIN|MAX|DEF}
VOLTage[:LEVel]:LIMit[:AMPLitude]? {MIN|MAX|DEF}

SYSTem
:LOCal
:REMote
:RWLock

Chapter 6 Tutorial

Tutorial

The ARRAY 366XA is a high performance instrument capable of delivering clean dc power. But to take full advantage of the performance characteristics designed into the power supply, certain basic precautions must be observed when it is connected for use on the lab bench or as a controlled power supply. This chapter gives specific details on the operation of the ARRAY 366XA power supply.

An Overview of ARRAY 366XA Operation

The ARRAY 366XA has a very precise regulating properties and respond quickly to variations of the line and load. These supplies also exhibit low ripple and noise, the tolerance of ambient temperature changes, circuit simplicity, and a high reliability.

The ARRAY 366XA is controlled by a control circuit that provides voltages to program the outputs. The power supply sends the output voltages back to the control circuit. The control circuits receive information from the front panel and send instant information to the display. At the same time, the control circuit also receives and returns the corresponding values over the remote interface.

The remote interface is isolated from the control circuit and the power supply.

Output Characteristics

An ideal constant-voltage power supply would have a zero output impedance at all frequencies. Thus, the voltage would remain perfectly constant in spite of any changes in output current demanded by the load. The ideal constant-current power supply exhibits infinite output impedance at all frequencies. Thus the output voltage of the ideal constant-current power supply would change correspondingly when a load change occurred in order to maintain its output current at a constant value.

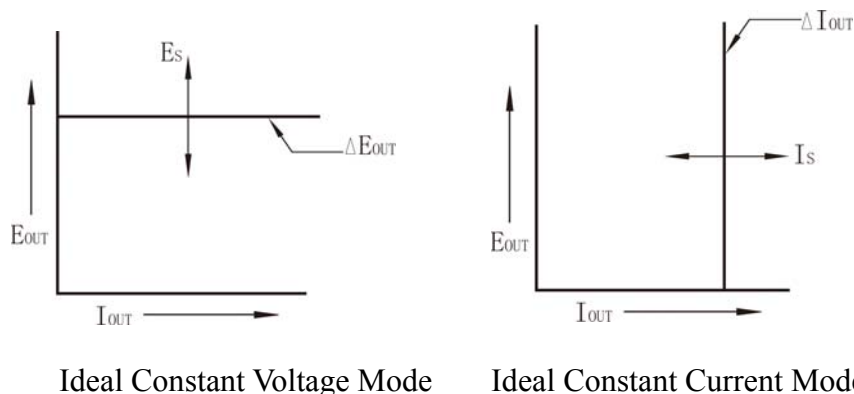
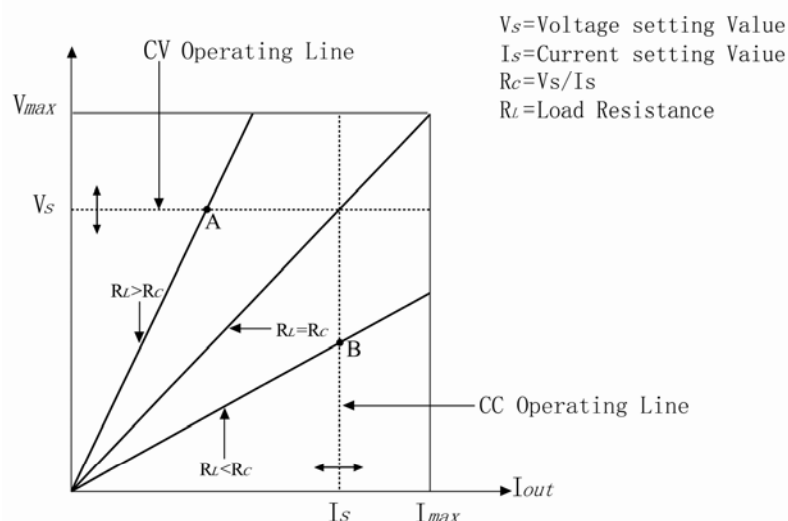
Ideal Constant Voltage Mode Ideal Constant Current Mode

The ARRAY 366XA power supply outputs can operate in either constant-voltage (CV) mode or constant-current (CC) mode. Under certain fault conditions, the power supply can not operate in either CV or CC mode and becomes unregulated.

Figure below shows the operating modes of the three outputs of the power supply. The operating point of one supply will be either above or below the line RL = RC. This line represents a load where the output voltage and the output current are equal to the voltage and current setting. When the load RL is greater than RC, the output voltage will dominate since the current will be less then the current setting. The power supply is said to be in constant-voltage mode. The load at point A has a relatively high resistance value (compared to RC), the output voltage is at the voltage setting, and the output current is less than the current setting. In this case the power supply is in the constant-voltage (CV) mode and the current setting acts as a current limit.

When the load RL is less than RC, the output current will dominate since the voltage will be less than the set voltage. The power supply is said to be in constant-current mode. The load at point B has a relatively low resistance, the output voltage is less than the voltage setting, and the output current is at the current setting. The supply is in constant-current (CC) mode and the voltage setting acts as a voltage limit.

Unregulated State

If the power supply goes into a operation mode that is neither CV nor CC, the power supply is in unregulated mode, which may occur momentarily. In this mode the output voltage and current are not predictable. The unregulated condition may be the result of the input AC voltage below the specifications or caused by non-resistive load. For example, when the output is programmed for a large voltage step, the output capacitor or a large capacitive load will charge up at the current limit setting. During the ramp up of the output voltage the power supply will be in the unregulated mode. During the transition from CV to CC as the output is shorted, the unregulated state may occur briefly during the transition.

Unwanted Signals

An ideal power supply has a perfect current or voltage output with no signals across the terminals or from the terminals to earth ground. The actual power supply has finite noise across the output terminals and finite noise from either terminal to earth ground.

And the noise across the output terminals is of very low value in the ARRAY 366XA.

The noise from the terminals to earth ground can be a problem for very sensitive circuitry that is referenced to earth ground. When a circuit is referenced to earth ground, a low level line-related AC current will flow from the output terminals to earth ground. Any impedance to earth ground will create a voltage drop equal to the current flow multiplied by the impedance. To minimize this effect, the output terminal can be grounded at the output terminal. Alternately, any impedance to earth ground should have a complementary impedance to earth ground to cancel generated voltages.

Connecting the Load

Output Isolation

The output of the power supply is isolated from earth ground and the power supply can be connected to the ground with the earth ground terminal when needed. Any output terminal can be grounded, and an external voltage source may be connected between any terminal output and ground. However, output terminals must be kept within ±240 Vdc of ground. An earth ground terminal is provided on the front panel for convenience.

Multiple Loads

When connecting multiple loads to the power supply, each load should be connected to the output terminals with separate connecting wires. This minimizes mutual coupling effects between loads and takes full advantage of the low output impedance of the power supply. Each pair of wires should be as short as possible and twisted or shielded to reduce lead inductance and noise pick-up. And for safety consideration, connecting lead with a large diameter is preferred to avoid overheat in heavy current condition. If a shield is used, connect one end to the power supply ground terminal and leave the other end disconnected.

If cabling considerations require the use of distribution terminals that are located remotely from the power supply, connect output terminals to the distribution terminals by a pair of twisted or shielded wires. Connect each load to the binding terminals separately.

To satisfy safety requirements, load wires must be heavy enough to avoid overheat while carrying the high output current of the power supply.

Considerations
During the operation of the power supply, various problems may occur because of the difference in connected loads, which will be introduced as follow respectively.

Capacitive Load
In most cases, the power supply will be stable for capacitive load of any size. Load with large capacitor may cause ringing in the power supply's transient response. It is possible that certain combinations of load will result in output instability. And the problem may be solved by properly decreasing the total load capacitance.

A large capacitor at the output terminals may cause the power supply to cross into CC or unregulated mode momentarily when the output is enabled. The slew rate of the output voltage will be limited to the current setting divided by the total load capacitance (internal and external).

Signal	Internal Capacitance	Internal Load Current	Slew Rate at No Load and Full Scale Current Setting
3662A	3000uF	0.65A	2V/msec
3663A	1440uF	0.3A	4V/msec
3664A	660uF	0.15A	6V/msec

Inductive Load
Inductive loads present no loop instability in constant voltage mode. In constant current mode, inductive loads form a parallel resonance with the power supply's output capacitor. Generally this will not affect the stability of the power supply, but it may cause ringing instantaneously when the power supply responds to the output..

Pulse Load
In some applications the load current varies within a large range. The constant current circuit limits the output current. Some peak loading exceeding the current limit can be obtained from the output capacitor. To stay within the specifications for the output, the current limit should be set greater than the peak current expected or the supply may go into CC mode or unregulated mode.

Reverse Current Load
An external source is not allowed to pump current into the supply. A reverse current loading may risk the loss of regulation and the damage of the power supply.

Extending the output

The ARRAY 366XA provides corresponding outputs, and enables the power supply to provide voltages or currents greater than its rated maximum outputs with different connecting measures when needed.

Series operation of two or more power supplies can obtain a higher voltage output than that is available from a single supply. Series connected power supplies can be operated with one load across power supplies. The power supply has a related internal protection function so that if operated in series with other power supplies, damage will not occur when the load is short-circuited or the series-wound power supply are not turned on simultaneously.

Reliability

Reliability of the power supply depends heavily on the ambient condition, in which the humidity and temperature will affect the reliability. The lower the temperature of the components, the better the reliability. When the power supply is in operation, an internal fan installed in the rear of power supply can keep the temperature of components low. To assist in cooling, please leave some room at the sides and rear of the power supply.